



橋本健一郎氏

六月前半は、五月の米雇用統計の悪化で「景気見通しに新たな疑問が生じた」と指摘。利上げ時期の特定を見送り、市場で「六月利上げの可能性は下がった」との認識や五月のシカゴ購買部協会景気指数は四九・三に低下、予想の五〇・五を下回る。五月の米消費者信頼感指数は九二・六に低下、予想の九六・一を下回るなど、米利上げ観測後退などのプラス材料もあつたが、二日開催のOPEC

で増産凍結に至らなかつた事、LME在庫急減によるファンドの売りや、英国のEU離脱観測に伴うユーロ安などが嫌気されLME銅相場はDOWN、六月十五日時点で四、五一〇・五ドル(セツル)と月初価格より一九〇ドルDOWNの前半締めとなつた。

後半は、英國のEU離脱懸念や日銀金融政策決定会合で据え置きが決まつた事、中国の五月の銅輸出が前年比二五六%増と大幅増加したなどのマイナス材料もあつたが、FOMCでの利上げ先送り、英國のEU離脱はリーマンショックのようにはならないとのマーケットが認識してきたことを好感しLME銅相場はUP、七月四日現在、後半スタート価格から二一〇ドルUPの四、七八三・五ドル。銅建値五四万円となつた。

◆月間のドル/円レート (TTS)

一一・六七→一〇三・七五(円)

◆自動車生産台数

日本自動車工業会によると、自動車生産台数は前年比一・七%増の六五万六、八一四台である。

◆自動車販売台数

日本自動車販売協会連合会によると、自動車販売台数(軽除く)は前年比三%増の二八万七、七七〇台。

◆新設住宅着工戸数

国土交通省統計によると、新設住宅着工戸数は前年比九・八%増の七万八、七二八戸であった。

◆貿易関連指標

財務省貿易統計によると、輸出は前年比で電気銅が三五・八%増の四万八、〇五六t、スクランブルが四七・六%減の一萬六、五〇七t。

輸出

# 自動車、販売・生産とともに増加

橋本金属 橋本健一郎氏リポート①

・アルミ

輸入

輸入は電気銅が前年比三〇%減の二、一〇二t、スクランブルが三七・二%増の一萬一、二八一t。

■前月の国内指標

日本伸銅協会発表の伸銅品生産推移(速報)によれば、前年比一・五%増の六万二、二八〇t。

日本電線工業会発表の出荷速報(推定)によると、銅電線出荷量は前年比六・五%減の四万八、六〇〇tであった。

■概況

【自動車生産】

五月の四輪車生産台数は六五万六、八一四台で、前年同月の六四万五、五三九台に比べて一万一、二七五台(一・七%)の増加となり、二力月ぶりに前年同月を上回つた。五月の車種別生産台数は、乗用車は五五万四、〇七〇台で一万四、八九七台(一・八%)の増加となり、二力月ぶりのプラス。トラックは九万二、五一四台で三、〇四四台(三・二%)の減少となり、二力月連続のマイナス。バスは一万〇、二三〇台で五七八台(五・三%)の減少となり、六力月連続のマイナス。

五月の国内需要は三三三万一、五八七台で、前年同月比一・二%の減少であつた。うち乗用車二七万五、五〇五台で前年同月比一・四%の減少、トラック五万五、三〇七台で同〇・五%の減少、バス七七五台で同二二・一%の増加。

輸出は前年同月比四・六%の増加(実績)。

【自動車販売】

六月の国内自動車販売台数(軽は除く)は二八万七、七七〇台で前年比三%増と、三力月連続プラス。うち乗用車三・六%増、貨物一・二%減、バス一五%増。

【住宅着工数】

平成二十八年五月の住宅着工戸数は七万八、七二八戸で、前年同月比で九・八%増となつた。また、季節調整済年率換算値では一〇一・七万户(前月比二・三%増)となつた。

・住宅着工の動向については、前年同月比で五力月連続の増加となつており、利用関係別にみると、前年同月比で持家、貸家、分譲住宅ともに増となつた。

(六面へ続く)

# 今月の相場は米中の金融政策の動向が焦点

(四面より続く)

## 【伸銅品生産】

五月の伸銅品生産は前年比一・五%増の六万二、二八〇tと、一五力月ぶりに増加した。このうち、内需は五万一、七七五tで三・一%増と三カ月ぶりにプラス、輸出は一万〇、五〇五tで五・六%減と、一四力月連続マイナス。品種別では、銅条は一万八、九九一tで三・八%増と、一三カ月ぶりプラス、黄銅棒は一万四、七一四tで五・六%増と再びプラス。

## 【電線】

五月の電線出荷(推定)は前年比本・五%減の四万八、六〇〇t。うち国内五・二%減、輸出が三六・七%減。出荷部門別では、通信二・六%減、電力七・五%減、電気機械四・三%減、自動車六・六%増、建設・電販八・一%減、その他内需〇・六%増。

【輸出】電気銅輸出が三五・八%増の四万八、〇五六t。銅スクラップは四七・六%減の一萬六、五〇七t。

【輸入】電気銅が三〇%減の一、一〇二t。スクランプは三七・二%増の一萬一、二八一t。

## 【見通し】

・自動車は生産が一・七%増。五月の国内販売台数が前年比三%増。生産が二カ月ぶりプラス、販売が三カ月連続プラス。生産が再びプラス、販売に至つては大幅増! 今后の回復が期待される。

・住宅着工の動向については、前年同月比で五カ月連続の増加となつておらず、利用関係別にみると、前年同月比で持家、貸家、分譲住宅ともに増となつた。

・伸銅品は一五カ月ぶりプラスの前年比一・五%増。輸出は減少が続き一四カ月連続マイナス。品種別では、需要の多い銅条が一三カ月ぶりプラス。黄銅棒が再びプラス、

需要の多い銅条がプラス、黄銅棒も再びプラスで一万五千t台に向けて今後の回復が望まれる。

・電線は輸出が三六・七%減。内需は五・二%減。自動車向けが久々にプラスの六・六%増。  
・銅輸出は内需減による国内玉の供給過剰から地金は増加、スクランプは発生難から大幅減少。

・銅輸入は、内需減による地金は減・スクランプは生産調整の底入れ感から増加した。

## 【スクランプ需給予想】

EU離脱への警戒感を受け一時五二万まで急落、その後パニックも収束し五四万円まで回復してはいるが、依然二万程度の損失が見込まれることから市中に出回らないのではないか。

先月自動車生産、販売とともに久々に増加した。スクランプの発生には二、三カ月かかるため、今月は生産増加に伴う需要増を受けてひつ迫するのではないか?

ただし建値が六〇万円台に戻れば在庫が放出される可能性があり、需給は安定する。透明感から、一部で利下げの観測が出始めた。即利下げとはいかないまでも、利下げの声が大きくなる可能性は十分ある。

## 【価格・為替予想】

今月は、EU離脱問題が長引き変化がなさそうな事から材料視されず、米利上げ問題及び中国の金融政策に左右される。

米利上げ観測に関しては、英國のEU離脱が決定した事による世界経済の先行き不透明感から、一部で利下げの観測が出始めた。即利下げとはいかないまでも、利下げの声が大きくなる可能性は十分ある。

中国の金融政策も自国経済の低成長に加え、重要輸出先である欧州問題をうけて、追加緩和が実施される可能性も十分にある。それらを踏まえた七月の銅価格は、米国の利下げ観測が前進し、中国の追加緩和が行われた場合、心理的節目の五、〇〇〇ドルを予測。いずれかの場合は四、八〇〇ドル。下値はいずれの条件も達成できなかつた場合、六月安値の四、五〇〇ドル。

## 【為替】

為替は英國のEU離脱にともなう対ユーロでの円高、米利下げ観測期待から円高トレンドであるが、G七の流れを受けての介入がしにくい現状や追加的な金融緩和策が難しいことから円高が続くのではないか。

それらを踏まえ予測は、上値は日本が何らかの為替対策を結果的に一切行わず、米利下げ観測が前進した場合一〇二円台(TTM)を予測。下値は、日本がさらなるマイナス金利策や為替介入などを行い、米利利下げ観測が後退した場合、六月後半安値の一〇六円を予測。

銅建値に関しては五〇〇~五七〇円程度と予測している。